

伊勢崎市立第三中学校  
第1学年通信  
令和2年5月14日(木)  
休業期間臨時号No.6

# キラリ



## シリーズ『授業の再開に向けて①』

学校では、「授業再開」に向けて「**今度こそ!**」という想いで準備を進めているところです。そのような中、生徒の皆さんにも、**授業再開に向けての「ウォーミングアップ」**をしっかりと行って欲しいと思っています。

新シリーズ『授業の再開に向けて』では、改めて「**中学生になる**」ことの心構えを再確認していきます。また、「**授業再開に向けて準備する事**」や「**学校生活が始まってからの事**」などもお伝えしてしていきたいと思っています。皆さんが中学生として生活している様子をイメージしながら、学習面だけでなく「からだ」と「心」の準備も進めてください。



## ～中学生のカタチ①～

中学に入学はしたものの、未だ本来の中学校生活を送れていない状況の中、本来あるべき「中学生としての姿」とはどのようなものなのでしょう？

今回は、「**中学生のカタチ**」と題して「**中学生らしさ**」について考えて行きます。本号はその1回目です。

### <「中学生のカタチ」…その1>

◇物事を「**広い視野**」でとらえ、「**深く**」考えることができる。

これまでは、ある「一面」や「表面的」な部分だけを見て、物事を判断してしまうことがあったと思います。ところが中学生になると、広い視野で物事を見る目を育てることが大切になります。また、より深いところまで掘り下げて考えることも必要になります。

その結果、「**相手の気持ちを察する**」ことができるようになったり、人に言われなくても「**善悪の判断がしっかり出来る**」ようになったりします。

中学生の年代は、『子供っぽく見える』生徒と、『大人っぽく見える』生徒がいますが、その境目はこのあたりの「成長の度合い」と関係があるのかもしれませんがね。





このような態度は、中学校生活の「どのような場面」で身につけられるのでしょうか？

## 【例1】「毎日の授業」の中で身につけられます。

以前の学年通信の「学問をおまんじゅうに例えると・・・」という話の中で述べた「**深く追求すること**」を日々実践していきましょう。

人の『思考の仕方』は、どのような場面でも基本的には同じです。授業中に「なぜこのような式になるのだろうか？」と考える生徒は、人間関係でトラブルが生じた時などにも「〇〇さんは、なぜこのような発言をしたのだろうか？」と考えを巡らせ、**言葉の裏側にある「本当の心」を理解する努力をする**はずです。

「答えがあっているからいいや。」と思い、考える事をやめてしまう生徒は、同様の場面でも「**むかつく～!**」で**思考を停止**させてしまうことが想像できます。



### 【今から出来ること・・・】

★学年通信/休業期間臨時号No.2『勉強に対する意識改革のポイント』を踏まえて、学習への取り組み方を再点検してみましょう。

## 【例2】「読書」で身につけられます。

私たちが一生の中で体験できることは限られています。そんな時、「読書」は私たちをもう一つの新しい世界に誘ってくれます。「**読書**」は『**今の人生を生きつつ、もう一つの世界を生きる**』ことなのだと思えます。

読書をすることで、**自分の世界（視野）が広がります。さまざまな生き方や考え方に触れること（多面的な見方）が出来ます。人の気持ちを押し量ることができるようになります。**



### 【今から出来ること・・・】

★三中では、朝の時間に「朝読書」の時間を設けています。**授業再開早々に本を準備してもらうことにもなります**（具体的な日は連絡します）ので、一足先にお気に入りの本を見つけて、読み始めてみるのも良いと思えます。

- ※できれば「文庫本」（小さい本）がよい。
- ※マンガは不可。活字で表現されている本。
- ※内容についての指定はなし。



